



薬局だより

白庭病院
2017年6月



～糖尿病治療薬について～

糖尿病の治療は、食事療法と運動療法が基本です。しかし、食事療法と運動療法で良好な血糖コントロールが得られない場合には、薬物療法を開始します。近年、糖尿病治療薬は種類が増えて、より副作用が少なく効果的な治療が可能となりました。今回は新しい薬も含めて、各薬剤の特徴と注意点についてご紹介させていただきます。

<飲み薬> 作用の違いによって、以下の7つに分類されます。

- ① α -グルコシダーゼ阻害薬 (α -GI)
- ② スルホニル尿素薬 (SU薬)
- ③ ビグアナイド薬
- ④ チアゾリジン薬
- ⑤ 速効型インスリン分泌促進薬
- ⑥ DPP-4阻害薬
- ⑦ SGLT2阻害薬



① α -グルコシダーゼ阻害薬 (α -GI) (グルコバイ、ベイスン、セイブル など)

食物に含まれている炭水化物の分解・吸収を遅らせることで、食後の急激な血糖上昇(食後高血糖)を抑える薬です。単剤では低血糖を起こしにくいですが、他の血糖降下剤と一緒に飲んでいる(または注射している)時に低血糖が生じた場合は、砂糖ではなく、ブドウ糖をとる必要があります。(必ず食直前に服用。副作用:お腹が張る、おならが出やすい)



② スルホニル尿素薬 (SU薬) (アマリール、ダオニール、グリミクロンなど)

すい臓にある β 細胞を刺激して、インスリンの分泌量を増やし、血糖値を下げる薬です。作用は強力です。(低血糖に注意。空腹感が高まり過食傾向になりやすく、体重増加をきたしやすい)



③ ビグアナイド薬 (メトグルコ、グリコランなど)

肝臓でブドウ糖が作られるのを抑えたり、筋肉や脂肪組織でブドウ糖の取り込みを高めたり(インスリン抵抗性改善)腸管からのブドウ糖の吸収を抑えます。

(頻度は低いが、乳酸アシドーシス*を起こすことがあります、ヨード造影剤使用時には注意が必要)

*血液中に乳酸が異常に増えてしまい、血液が酸性になってしまうこと



④ チアゾリジン薬 (アクトス)

肝臓でブドウ糖が作られるのを抑えたり、筋肉でのブドウ糖の取り込みを促します。また、脂肪細胞に作用して、インスリン抵抗性を改善します。(浮腫、肝障害に注意)



⑤ **速効型インスリン分泌促進薬**（ファスティック、グルファスト、シュアポストなど）

作用部位や作用機序はSU薬と同じで、インスリンの分泌量を増やし、血糖値を下げる薬ですが、速効・短時間作用という点が異なります。食事の直前に飲むことで、食後の血糖上昇をおさえることができます。（必ず食直前に服用。低血糖に注意）



⑥ **DPP-4 阻害薬**（ジャヌビア、エクア、ネシーナ、トラゼンタ、テネリア、オングリザなど）

インスリンの分泌を強める作用がある消化管ホルモン（インクレチン）を分解する酵素を阻害して、インスリンの働きを強めることにより血糖値の改善を目指す薬です。

（SU薬との併用で低血糖に注意が必要）



⑦ **SGLT2 阻害薬**（スーグラ、フォシーガ、カナグル、ジャディアンスなど）

腎臓のSGLT2と呼ばれるたんぱく質のはたらきを抑えて、尿と一緒にブドウ糖を排出することで血糖値を下げる薬です。（尿量が多くなるため脱水に注意、水分摂取が必要！膀胱炎、性器感染症に注意）



<注射薬> 注射薬は2種類あります。



①GLP-1 受容体作動薬

②インスリン製剤



① **GLP-1 受容体作動薬**（ビクトーザ、ビデュリオン、トルリシティなど）

膵臓のGLP-1受容体というところに働いて、血糖値が高くなるとインスリンの分泌を促して血糖値を下げます。低血糖の心配が少なく、脳の食欲を司る部分に働きかけて食欲をおさえる作用もあり、体重の増加をきたしにくいお薬です。インスリンのように、血糖値や食事に合わせて注射の量を調節する必要がありません。

（インスリンの代用薬にはならない。消化器症状に注意）

② **インスリン製剤**（ノボラピッド、アピドラ、トレシーバ、ランタスなど）

現在使用されているインスリン製剤には、ヒトインスリン製剤とインスリンアナログ製剤の2種類があります。ヒトインスリンは、遺伝子組み換え技術により開発された製剤で体内のインスリンと同じ構造を持った製剤です。インスリンアナログは、ヒトインスリンの改良版であり、ヒトインスリンの構造を一部変えることによって作用時間の調節や副作用の軽減が可能になった製剤です。通常、インスリン療法が適応となる糖尿病の治療に用いられます。（低血糖に注意が必要）



以上、糖尿病治療薬は、糖尿病のタイプや現在の症状、血糖コントロールの状態、合併症などを正確に医師が判断したうえで、決定されます。自分が飲んでいる薬がどういう働きをするのか、どんな注意が必要なのか、正しく理解することが大切です。



当院では平成28年9月より、「糖尿病外来」を開始いたしました。また同時に、「糖尿病教育入院」を受け付けております。入院に関しては、患者様に糖尿病をより良く知って頂くために、医師・看護師・管理栄養士・薬剤師・理学療法士・臨床検査技師がチームを組んで、①糖尿病とはどのような病気か、②食事療法や運動療法はどのように行うのか、③糖尿病の様々なくすり（血糖降下薬・インスリン薬）、④糖尿病に関係する検査（血糖、HbA1c など）や日常生活の注意点（低血糖、シックデイ）などを4日半（月曜日～金曜日午前中）の入院で説明させていただきます。興味のある方は、どうぞお声がけください。